

中生、晩生品種とも出穂期は「平年並」の見込み！ 適期・適量の穂肥施用で品質を確保！

1 生育状況 (7月 10 日現在)

コシヒカリ		草丈「並」	茎数「並」	葉数の進み「並」	葉色「並」
新之助		草丈「やや長」	茎数「並」	葉数の進み「並」	葉色「並」
品種		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD 値)
コシヒカリ (調査点数 9)	本年値	65	457	11.1	35.3
	指標比・差	97 %	99 %	-0.2	-0.5
新之助 (調査点数 3)	本年値	55	566	10.9	35.3
	指標比・差	105 %	98 %	-0.1	-0.7

2 今後の天気 (7月 6 日～8月 5 日：新潟地方気象台 7月 4 日発表)

気温：平年より低い～並 降水量：平年並～多い 日照時間：平年より低い～並

3 出穂期予測と穂肥時期・施用量のめやす (7月 10 日現在)

品種名	出穂期	穂肥時期のめやす(出穂前日数)		合計窒素量 (kg/10a)	
		1回目	2回目		
中生	こがねもち	8/2	7/15～7/18 (18～15)	7/23 (10)	1～3
	コシヒカリ	8/6	7/19～7/22 (18～15)	7/27 (10)	1～3
晩生	新之助	8/12	7/22～7/25 (21～18)	7/31～8/2 (12～10)	2

※中生品種 5/5 植え、新之助 5月中旬植えを想定

※出穂期は今後の気象条件で変動することもあるため、今後の情報に注意する。

4 今後の栽培管理

(1) 幼穂形成期(出穂前 23 日頃)以降は、稲が水分を多く必要とする時期であるため、**ほ場の乾燥は避け飽水管理^{*}を継続する**。また、異常高温時は速やかに湛水し、稲体の急激な水分不足を防止する。

^{*}飽水管理：水尻は止水し自然減水で田面の水がなくなったらかん水する

(2) コシヒカリの穂肥時期は、必ず幼穂長を確認してから決める。また、有機質由来窒素が 50%以上の肥料は施用を 2 日程度早める。

(3) 基肥一発施肥において、葉色が低下し、出穂期の葉色値(SPAD 値)が 32～33 を下回ると予想される場合には、追加穂肥を施用する。

(4) 斑点米発生防止のため、雑草が結実しない間隔で農道や畦畔の草刈りを行い、カメムシの増殖を抑える。

～ 農作業時の熱中症対策は万全に！ ～